

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070000254
法人名	社会福祉法人 育心会
事業所名	グループホーム 白梅の里
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡みやこ町犀川久富1616番地 (電話) 0930 - 42 - 0637

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	10月26日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	2人, 非常勤 7人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建造り 1階建ての1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,800円	その他の経費(月額)	(生活費) 16,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		600円	

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	79歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉永病院(内科・外科)・山本歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

犀川の緑豊かな自然の中で、田園と山々に囲まれた風光明媚な環境にあり、民家型平屋建て・木造造りの1ユニット型のグループホームである。家庭的な環境の中で自分らしく生活できることを目的とした理念「自立支援・尊敬と共感・ケアサービスの質の向上の確保」を掲げている。地域密着型のグループホームとして理念をもう一度検討し、今後の新しい理念に活かしたいとスタッフ全員で取り組んでいる。今後は新しい理念のもと、更に職員と入居者が楽しく共に暮らしていく様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>安全・安楽を最重要ととらえ、外出の機会が少なかったが、現在は改善され、月1回の食事会や地域の協力が得られ、外出の機会も増えてきている。今後は、サービスの質の向上を目指し、更に行政との連携を高めることが求められる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>みやこ町役場・みやこ町介護相談員・犀川久富区長なども参加により、利用者家族運営促進協議会を開催し、課題に関して改善に向けた取り組みの意見交換を行っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営促進協議会を開催し、みやこ町役場の介護相談員・地域の区長・利用者家族などで課題についてサービスの質を高める改善など、意見交換を行うながら取り組んでいる。月に1回、みやこ町より介護相談員が来訪し、運営促進会議などで検討した利用者のサービス評価について検討している。運営促進会議などの関わりを通じて行政の担当者との情報交換の機会を増やし努力している。更に行政との交流を高め、行政主催の研修参加など、積極的に研修に取り組まれることが望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会が運営促進協議会に参加し、行事についての意見や行事への参加希望など意見を言っていただけの機会を作っている。定期的には、四季に応じて入居者の暮らしぶりを白梅新聞で伝えている。家族が面会の際には、日常の状態や金銭の受け渡しの内容など伝え、意見などを言っていただけに働きかけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームを1軒の家としてとらえ、地域との交流を図っている。地域の清掃・空き缶拾い・盆踊り・花火大会など地域との関わりを大事にした交流へ積極的に参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの在り方をふまえ、地域との交流や普段の暮らしを視点においた理念を掲げ取り組んでいる。また、理念に関しては、今後の中で日々の暮らしの中で、受け入れやすい理念にしたいと全員で見直しを検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の各所に手書きされた理念が掲示され、日々の日常生活の中で職員への意識がけや唱和を行い、理念の周知徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流をグループホームより発信し、一軒の家としての付き合いを目指し、清掃・空き缶拾い・盆踊り・花火大会など地域との関わりを大事にした交流を積極的に行っている。今後は、地域密着型サービスの一環として、認知症介護の講座など、地域の認知症の理解を高める活動など期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	みやこ町役場担当者・みやこ町介護相談員・犀川久富区長などが参加し、利用者家族運営促進協議会を開催している。サービスの質の向上を図るための課題など、改善に向けての意見交換などを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に1回みやこ町より介護相談員が来訪があり、入居者のサービス評価についての検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営促進協議会などの関わりを通じて、町の担当者との情報交換の機会を増やし努力されている。更に行政との交流を深め行政主催の研修などにも積極的に参加していくことが求められる。		今後は、研修の機会などの情報収集を通じて、更に行政との連携を高めることが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については具体的な制度の理解や研修を通じ勉強を行っているが、家族に対して情報の提供や発信は行われていない。但し、いつでも情報提供や対応ができるように整えている。		職員が入居者の状態に応じて、いつでも家族に権利擁護の制度の説明ができることが求められ、研修を深め、家族へ情報提供ができるように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日の暮らしぶりや金銭の受け渡しの内容などは、面会時などに伝えており、意見や要望なども話していただけるようにしている。定期的に四季の報告として、白梅新聞を発信し、グループホームの暮らしなどを報告している。		ホーム便りなどを通じて、行事の参加状況を写真などにして、掲示したり、家族へ報告するなど、更なる工夫をお願いしたい。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、運営促進協議会に参加していただき、行事についての意見や行事への参加希望など意見交換を行っている。家族の協力を徐々に得られ、意見や要望を話していただける関係づくりに努めている。		今後も家族の意見や協力が得られやすいように、グループホームより、意見や要望を吸い上げる機会を増やし、家族が意見や要望を気軽に言える関係を高めてほしい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、極力入居者に与えるダメージを少なくするように、運営者として家族に説明し、入居者のケアの一環として異動による影響を考慮し配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	性別・年齢などを理由としての採用は行っていない。職員が働きやすい環境の配慮を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	母体である法人内で研修の機会があり、人権を尊重した取り組みを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修をもとに内部研修の取り組みの工夫が欲しい。		今後は、研修計画や研修を受ける機会の確保に期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に参加する機会があるが、地域の同業者との交流も積極的に支援することが求められる。		グループホーム協議会に参加することで同業者との交流を積極的に図り、サービスの質の向上に繋げてほしい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居の際には、本人・家族と事前に見学により、安心して過ごしていただけるグループホームであるか、検討していただいている。入居の相談など、話し合いを行いながら、納得していただいた上で入居の手続きを行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、入居者の好む話題など、話題づくりに心掛け、ゆっくりと共に過ごす時間を大切に、学んだり、支え合う関係を築く取り組みを行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	個別ケアの実践に取り組み、センター方式の勉強をされている。日々の暮らしの中での意向や嗜好の気づきを把握されているが、アセスメントに活かされていない状況がある。		思いや意向が計画・アセスメントに反映していくことが求められる。生活暦・職歴などもアセスメントする事が求められ、ファイルの整備をお願いしたい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	日々の暮らしでの気づきをチームケアへ反映し、ケアに関わる職員の意見や家族との意見交換を交えながら、本人の意向を反映していく介護計画が求められる。		個人ファイルを整備して介護計画に反映されることが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画は定期的に見直されている。また、状態変化に応じて、現状に即した介護計画の見直し及び計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人のデイサービスや特別養護老人ホームとの連携により、要望に応じた医療機関への受診ができています。また、温泉・ドライブ・行事などの参加など家族やボランティアの協力が得られ、柔軟に取り組んでいる。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	協力医療機関との連携による受診やかかりつけ医、訪問歯科などの受診を支援している。年1回の健康診断も受けており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	同法人内の特別養護老人ホームやかかりつけ医との協力体制ができており、看取りに関する方針を共有し、看護師がスタッフの中に2名おり、いつでも家族への働きかけやかかりつけ医との連携が取れる体制がある。		家族への働きかけや看取りについて重度化に向けての書類の整備が必要である。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	毎日の暮らしの中では、職員が穏やかに言葉かけを行い、プライバシーに配慮した取り組みを行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの入居者のペースにそって、希望や意向を把握し、食事・入浴・外出など柔軟に対応されている。体調を配慮しながら、日々の暮らしが自由に希望にそってできるように努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	近隣へ野菜など新鮮な物を入居者と買い物へ行ったり、日頃から嗜好の問いかけや食事の後片付けなどを一緒に行い、職員も入居者と同じ食事を囲み、楽しい雰囲気づくりを心掛けている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	毎日、午後に入浴の体制があるが、入居者一人ひとりの意思を尊重し、時間帯や回数にとらわれず、何時でも入浴できるように支援されている。拒否される方に対しても代替で柔軟な対応の配慮がある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	押し付けや強制することなく、日々の生活の中で掃除や草取り・洗濯物干しなど、自然にそれぞれが役割を果たせるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	月に一回の外出会や買い物、散歩など入居者がホームの中に閉じこもらず、気分転換を兼ねた花見やドライブなど個別に気軽に外出できる体制がある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の自由な暮らしを尊重し、本人の意向にそって、居室には個別に鍵の管理ができるようにされている。また、日中は外出可能な体制を作り、鍵をかけない暮らしを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害を想定した実践的な避難誘導訓練を2ヶ月に1回実施し、消火器・備品を準備している。緊急連絡体制も整えている。但し、消防署との連携が不十分である。		消防署の指導體制の取り組みや地元の消防団や近隣との連携が求められる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	同法人内の協力で栄養士の指導もあり、地元で採れた季節の新鮮な食材を取り入れ、一人ひとりの好みや水分・カロリー・摂取量・嗜好などを栄養バランスもよく献立が立てられ、個別への配慮も行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間をできるだけ明るくするために、照明やカーテンで調整が行われ、生活の工夫がある。季節の生花が飾られ、廊下には季節ごとの飾り付けなど工夫が見られる。各所にソファが置いてあり、いつでも、くつろげる場所の配慮がなされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、本人が日頃から家庭で使い慣れた物を持って入居して頂き、写真や思い出の品などが飾られ、安心して、その人らしい暮らしが居心地良くできるように、居室の工夫がみられる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			